

治療薬学領域Ⅱ		選 択	春・秋学期	1 単位
担当研究分野	薬物治療学、機能形態学、医療薬学、分子生物学、運動科学			
到達目標・目的	薬物治療学：臨床の場での疾病治療の現状および今後のあり方について解説し、薬物療法を理解するための基本的な考えを論じるとともに、生活習慣病の治療に関する最近の話題とそれらの薬物治療について論じる。 機能形態学：生活習慣病に関する知識が深まることを目標とする。 医療薬学：疾病治療の現状や最近の話題を概説し、薬物療法の基本的な考え方への理解を深める。 分子生物学：世界の最新研究トレンドを的確に捉え、グローバルな視点から自身の研究テーマが持つ真の価値と役割を再定義する。 運動科学：メディカルアロマセラピーおよびスポーツ科学の知見や研究動向を学び医療分野への応用を目指す。			
受講心得・準備学習等	薬物治療学：基礎的事項から最前線の治療に至るまでの情報を提供する予定なので、講義には積極的な姿勢で臨むこと。理解しにくいことは講義中に質問してその場で疑問を解決する姿勢で臨むこと。 機能形態学：生活習慣病とその関連疾患に関心を示し、科学的エビデンスに基づいた対策について真剣に考えてくること。 医療薬学：講義に積極的に参加すること。課題については事前に調査し、演習では自らの見解を明確に述べる。 分子生物学：講義には積極的な姿勢で臨み、課題には熟考の上取り組むこと。 運動科学：講義に積極的に参加し、新しい知識の習得に務めると共に柔軟な発想で自身の意見や考えを述べる。			
事後学習・復習等	薬物治療学：復習をしっかりと行い、重要事項を整理すること。 機能形態学：講義内容を中心に、様々な生活習慣病の治療方法にも応用展開し、日本国民の現状、その対策等についても考える。 医療薬学：各研究分野における物事の捉え方を学び、自分自身の研究との関連性について考察すること。 分子生物学：各研究分野における国際的な潮流を俯瞰し、先行研究との比較を通じて自らの研究の独自性と位置付けを常に明確化すること。 運動科学：各研究分野における物事の捉え方を学び、自分自身の研究との関連性について考察すること。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		講義			
実施日	時間	実施方法	研究分野	担当者	内 容
6/16 (火)	90 分 13:15～	対面 209	医療薬学	杉山	悪性腫瘍に関する薬物治療の基本的な考え方と最近の話題 (受講できない場合は、前日までに連絡すること)
6/23 (火)	90 分 13:15～	対面 209	医療薬学	五十嵐	漢方薬を用いた治療の基本的な考え方と最近の話題 (受講できない場合は、前日までに連絡すること)
6/25 (木)	90 分 10:45～	対面 209	機能形態学	小林 (恒)	生活習慣病と血管合併症の分子機構 受講できない場合は、前日までに連絡すること
7/6 (月)	90 分 10:45～	対面 209	薬物治療学	池田	糖尿病に関する薬物治療の基本的な考え方や最近の話題

7/7 (火)	90 分 10:45～	対面 209	機能形態学	田口	生活習慣病と高尿酸血症および痛風の関係 受講できない場合は、前日までに連絡すること
7/13 (月)	90 分 10:45～	対面 209	薬物治療学	池田	肥満に関する薬物治療の基本的な考え方や合併症 と最近の話題
7/23 (木)	90 分 16:30～	zoom	運動科学	竹ノ谷	メディカルアロマセラピー概論:補完代替医療の一 分野であるアロマセラピー学の基礎理論および最 新の研究動向を学ぶとともに、医療分野における応 用の可能性と今後の課題について考察する。
11/17 (火)	90 分 10:45～	zoom	運動科学	竹ノ谷	健康スポーツ概論:運動を通じた健康増進の実現を 目的として、スポーツ医学・運動生理学、スポーツ 科学、栄養学、スポーツ心理学、スポーツマネジメ ント、トレーニング理論など、多角的なスポーツ領 域の専門知識を統合的に学修する。
他の授業 と重複し ない時期 に設定	90 分	オンデ マンド	分子生物学	千葉	ある研究分野の今昔例を紹介する。これをもとに各 自の研究分野について考察する。
	90 分	オンデ マンド	分子生物学	千葉	ある研究分野の今昔例を紹介する。これをもとに各 自の研究分野について考察し、レポートにまとめる。

成績評価 の 方 法	薬物治療学：受講態度ならびにレポートにより評価する。 機能形態学：講義中のレポートにより評価する。参加できなかった場合は、別途指示をする。 医療薬学：受講態度ならびにレポートにより評価する。 分子生物学： 運動科学：実施した内容についてレポートを課し、評価する。参加できなかった場合は別途 の課題により評価する。
成績評価 の 基 準	薬物治療学：受講態度（30％）およびレポート（70％）の合計点が、60％以上を合格とする。 機能形態学： 医療薬学：受講態度（30％）およびレポート（70％）の合計点が、60％以上を合格とする。 分子生物学：受講態度（30％）およびレポート（70％）の合計点が、60％以上を合格とする。 運動科学：授業への取り組み方、課題に対する準備やレポート等を総合的に評価して、60％ 以上を合格とする。
教 科 書	なし(必要に応じて資料を配布する)
参考書など	なし
そ の 他	